

史遊会通信

No.250 号
平成 28 年
2 月 5 日

編集
042-754-9360
arai-hiroshi@
jcom.home.ne.jp
新井 宏

一月総会の報告

幹事辞任と今後の運営について

新井 宏

平成二十八年一月十六日(土)の定例総会で、既に昨年十月にお申し出のありました幹事、隆恵さんと漆原直子さんが退任されました。お忙しい中、色々とお苦勞様でした。

次期幹事の選任につきましては、お二人共に種々、努力して下さいましたが、会員の減少や高齢化のため、引き受けて下さる方が見つからず、結局本日を迎えました。

今後の運営に関しては、退任する幹事の司会ではなく、別に協議してほしいとのことで、予定されていた柴田弘武さんの講演『「日下(部)」「考」を先に伺った後に、総会を再開しました。

しかし、司会者も決まらない状況で、雑談的に相談していても、時間内にまとまらない可能性がありましたので、私(新井宏)から、次のような提案をいたしました。

会員歴が長く事務を担当している私が、まとめ役を買って出た形です。

一、従来通りの会の運営は、幹事不在のままでは、実質的に困難なので、史遊会は「中締め」として解散とする。

二、しかし、会の資金が70万円近く残っている。これは、平成24年6月以降、事務所費・通信編集費(月23千円)が不要となつ

た分に相当し、史遊会(任意団体)の性格から解散しても会員への払戻は好ましくない。三、三十年以上の歴史を持つ会なので、参加者に負担にならない形で「史遊会サロン」のような「同窓会」なら続けたいとの希望も多くある。

四、そのため運営体制としては、①会費は徴収しない。②隔月程度の割合で、定例日、定会場を設け、サロンの会を開催する。③従来の「自由執筆」や「講演(話題提供)」は廃止しないが、パスすることは全く自由、④連絡等のため『史遊サロン通信』を半定期的に発行し、「自由執筆」や「講演のニュース」等があれば載せる。⑤従来のような会員、友の会の区分は廃止し、知人、OB会員等の自由参加を歓迎し、希望者には連絡のため『通信』を届ける。

五、幹事なしの運営となるので、事務的な業務は従来通り私(新井宏)が引き受ける。会費を徴収しないので、会計処理は信頼ペーすで出費のみ記録。

六、会の資金の迅速な消化をはかるため、①『史遊会通信』第11集(2014~2015年)を作成して国会図書館に納本(5万円)、②ネット掲載の『史遊会通信』を継続(年3千

円)、③ 会場費支出(年5万円)、④ 『通信』の郵送料・コピー費等(年3万円)、⑤ 史遊会に何らかでも関連したエッセイ、論考などを小冊子にすることを奨励して、編集・出版費(50頁50部で3万円程度の実費)を支給する。

七、サロン活動が終了しても、なお資金が残った場合は、何らかの形で「寄付」して終了する。

以上のような提案に対して、基本的に賛同していただきましたので、当面の運営は、次のようにいたします。

例会 奇数月の第3土曜日午後3時～5時

会場 八重洲北口ルノール貸会議室

話題提供 既に計画されている分担表で準備

されている方も居られますので、当面話題提供等にご協力を願う。もちろん、パスは自由、紹介時間も従来より短縮30～60分。

自由執筆 従来の「友の会」の方々の積極的な参加を期待する。執筆動機付けのため、今後も事務局で勝手に割り当て表を作成するが、パスは自由。

史遊サロン通信 半定期的に発行

なお、以上のことなら「協力するよ」と申し出て下さった方もおり、心強く感じています。以上

史遊会退会のお申し出

柴田弘武さん・漆原直子さん

史遊会の長老会員の柴田弘武さんから、年齢・体調の面から、会員活動が困難になったので退会するとのお申し出がありました。

また漆原直子さんからも、伯母様の家が埼玉県下では唯一の国の登録有形文化財に登録され、仕事の他に、その保存と活用に本格的に取り組むために、退会のお申し出がありました。

ただし、史遊会の「中締め」により、会費も徴収せず、講演・執筆の義務もなくなり、OBも会員の運用しますので、今後も気軽に参加下されば、有りがたいと思います。

三月十九日例会「話題提供」

『上杉綱勝急死事件』

千坂 精一

組織はエゴと欲望の固まりである人間の集団であるから、いつか互いの野心と闘争本能が剥き出しになって騒動に発展することは避けられない。

荀子の『性悪説』に立てば、人間社会に騒動が起こるのは当然であつて不思議ではない。現代での事例は差し障りがあるので江戸時代に遡ってみると、私の知る限り大名家に興った騒動は優に百を超える事例があるから、それをひとつひとつ採り上げていけば物書きの素材に事欠くことはない。

悪人を書くのは気遣いがいらぬし、公序良俗に拘束されないから気楽である。

そのなかのひとつ、出羽国米澤の上杉家で起こった当主綱勝急死事件は、家中のみならず外戚も絡んでそれぞれの欲望を達せんがための極めて醜悪な御家騒動であつた。

これは以前歴史雑誌になんども書いたことであるが、あらためて俎上に載せて検証してみる。

自由執筆

出雲大社再考(八)

忘れ去られた野城大神(下)

村上 邦治

能義神社から飯梨川の六キロ上流に、一時は山陰(出雲・隠岐・石見・伯耆・因幡)、山陽(美作・備前・備中・備後・安芸・播磨)、の一か国を支配した、戦国大名尼子氏の居城月山富田城がある。

尼子氏は応仁の乱後、出雲、隠岐、飛騨、近江四国の守護京極家の守護代として、月山富田城を本拠に、出雲国内を掌握した。戦国時代、経久、国久、晴久三代は、山陽の大内氏、毛利氏と常に張り合った。山陰にありながら、中国地方を牛耳った尼子氏の経済を支えたのは、美保関を抑えたことである。島根半島の東端三保神社のある三保港は、出雲、隠岐のみならず、日本海諸国、さらに、朝鮮との貿易拠点であり、舟役運上金は巨額にのぼった。もう一つは、石見大森銀山からの銀産出であった。この二か所からの軍資金は、能義を通り、飯梨川をのぼって、富田城に運ばれたのである。

出雲統治の困難さは、杵築(出雲)大社、日御崎神社、鰐淵寺、雲樹寺(現安来市後醍

醐、後村上天皇の勅願寺)など、社寺の権力が強く、しかも各々朝廷や將軍・管領と結びつき、対峙することが多く、その仲裁には難儀した。特に杵築大社と日御崎神社との紛争は、絶えることが無かった。

こうした経済的背景と社寺間の争いは、能義神社にとって、またとない復活の契機となるかもしれない。

三保関からの公用銭、石見大森銀山の産出銀は、能義神社の直ぐそばの飯梨川を通り、運ばれた。小高い丘の上にある能義神社は、前面に安来平野が広がり、月山富田城の軍事前線砦としても最適な場所であった。また社間の抗争は、古代出雲国の四大神である野城大神を復活させることで、寺社を牽制し、抗争を和らげ、抑えられたかもしれない。

しかし、中国地方を席卷した尼子氏は、野城大神を重視することなく、また能義神社に砦としての役目を持たせ、拡充することも、一切なかった。経済・軍事的に重要な場所にある能義神社を、尼子氏は、何も活用せず、支援しなかったのである。

江戸期に入り、慶長一六年(一六一一)火災により、社殿や古記録、社宝は全て消失した。当時の月山富田城主は、関ヶ原合戦に敗れた毛利一族にかわり、堀尾氏が浜松から入

国していた。山城にかわる松江城築城途上であったが、三代藩主堀尾忠晴により、丘の中腹の現在地に、小ぶりながら大社造りの本殿を再興した。これが現社殿である。その後松平氏の入国により、中心地は松江に移り、能義周辺は寂れてしまった。

『延喜式』の式内社である能義神社は、明治四年の社格では、下位の郷社(地域の産土神を祀る)にしか位置づけられず、ようやく明治六年県社に昇格した。四大神のうち杵築大神(出雲大社)は最高位官幣大社、熊野大神(熊野大社)は国幣中社(大正五年国幣大社)、佐太大神(佐太神社)は国幣小社(大正一四年)に格付けされ、もはや比べようもなかった。

野城大神に由来する能義の地名は、出雲広瀬藩(松江藩支藩)時には、何処にもなかった。ようやく明治九年能義村として復活、明治一二年能義郡が発足し、郡役所は広瀬町に置かれた。しかし平成一六年、広瀬町が安来市と合併、能義郡は消滅した。現在は、神社のある狭い地域に、能義町として残るのみである。しかし野城大神由来の駅があったと思われる飯梨川に架かる橋には、能義大橋として、その名を僅かにとどめている。

能義神社から、月山富田城下にある安来市立歴史資料館（前広瀬町立歴史民俗資料館）に行った。富田城や旧城下町の出土品が展示してあった。入口に旧広瀬町の名所旧跡や遺跡の場所を示す、大きな観光地図があった。しかしそこには、能義神社の記載はなかった。

出口で受付員に、「地図に能義神社の所在が無いのですが」と尋ねた。学芸員と思われる女性は、「野城大神は出雲風土記に記載の四大神ですよ。その大神をお祀りした能義神社の記載が無いはずはありません。」と、少し怒ったような声で言った。「でもないのですが。」
 といいつわりないうちに、彼女は観光地図の処に、小走りに確かめに行った。戻ってきて、小さな声で、「申し訳ありません。ありませんでした。至急記載します。」と内向き加減に謝った。

忘れ去られた野城大神に、なにか良い事をしたような気分がして、館を後にした。

(この項終り)

今後の活動予定

運営方法のところで示したように、従来のような「講演(話題提供)」や「自由執筆」に

については、義務化せずにパス自由としますが、予定があると、若干の拘束効果を生み、それを契機として、執筆などが進む場合があります。左表を目安として下さい。様子を見ながら修正して行きます。

史遊会の28年行事計画(旧)

敬称略

講演		自由執筆				
月日	担当	No	締切日	担当		
2月20日	千坂精一	2月 250号	1月末	千坂	新井	柴田
3月19日	瀧澤 中	3月 251号	2月末	滝澤	宇野	高橋
4月16日	高橋正彦	4月 252号	3月末	太田	森下	佐藤
5月21日	佐藤健一	5月 253号	4月末	村上	漆原	諸橋
6月18日	諸橋 奏	6月 254号	5月末	平山	隆	藤田



旧計画を参考にして、計画案を隔月に引き延ばしたもの

例会話題提供		自由執筆				
月日	候補	No	締切日	担当		
3月19日	千坂精一 瀧澤 中	3月 1号	2月末	千坂 滝澤	新井 宇野	由利 高橋
5月21日	高橋正彦 佐藤健一	5月 2号	4月末	太田 村上	森下 中島茂	佐藤 諸橋
7月16日	諸橋 奏 太田精一	7月 3号	6月末	平山 三戸岡	隆 中込	藤田 安田
9月17日	村上邦治 中込勝則	9月 4号	8月末	千坂 滝澤	新井 宇野	由利 高橋
11月19日	三戸岡道夫 森下征二	11月 5号	10月末	太田 村上	森下 中島茂	佐藤 諸橋

例会の話題提供者が全員パスした際は、新井がフォローします